

# まじゅん

編集責任者 西銘 隆（田崎病院）

編集者 石川 淳（新垣病院）

送信者 兼浜 克弥（なんくる）

E-Mail oki-psw@nirai.ne.jp

沖縄県精神保健福祉士協会 87号

## 2013年12月定例会報告

日時：平成25年12月14日（土）

場所：アソシア社会大学

テーマ：「相談援助の心構え・その3 ～それでも相談引き受けます～」

講師：西銘 隆（田崎病院）

参加数：10名

### 【定例会の概要】

- ・西銘さんより、相談支援の心構えについて基本姿勢、具体的なスキルについてのお話を頂いた。
- ・西銘さんにお話いただいた、基本的な面接技術と心構えを用いた演習を午前と午後、二回に分けて行った。
- ・午前の演習Ⅰは、二人一組になり、お互いのことをグループ内で紹介する他己紹介。
- ・午後の演習Ⅱでは、クライアント役、面接者役、観察者役に分かれて、それをローテーションし、インタビュー場面を想定した演習を行った。

### 【感想】 報告者： 地域生活支援センターなんくる 末吉 司

相談員として、スタートを切り、約1か月。初めて精神保健福祉士会定例会に参加させていただいた。初めて訪れた会場となるアソシア社会大学は、私の中の価値観がひっくり返ってしまう程、お洒落な雰囲気で驚かされた。不安感とアソシアの素敵な空間が自分の中で混ざり合っ、少し不思議な心境で定例会がスタートした。

思い返すと、終始、わくわくした気持ちと不安な気持ちの往復だったような気がする。「こんな対応ができたらいいな」と「こんな対応は自分にはとてもできない…」という2つの思いの葛藤だった。

そして午後の演習の時に頭が真っ白になった。私が面接者役の時に緊張のあまり声が出なくなったのだ。自分のがっかりした。しかし、振り返りの際に貴重なアドバイスや意見を頂いた。自分自身の課題や気づきを再発見することができたし、「クライアントの目線に立つ」という一番当たり前で一番大切なことを再確認できた。それには、自分自身をコントロール出来ないといけない、成長しないといけないということを痛感した。

何よりも精神保健福祉士の先輩の皆さんと接することができたのは大きな喜びと刺激となった。私自身も、不安なことばかりだが先輩達のように第1線で胸を張れる日が来ることを信じて、揺れながらも、自分なりに進んで行きたいと思う。

# 2014年1月定例会報告

日 時：平成 26 年 1 月 25 日(土)

場 所：沖縄県総合福祉センター 東棟 501 教室

テーマ：『**沖縄の人材育成の課題とコーチング活用による新たな展望**』

講 師：豊田 麻琴(ミライズコミュニケーション代表)

参加数：20 名

【概 要】人材育成の課題について、コーチングというスキルを使った新たな展望というテーマに基づき、その手法を講話やロールプレイを行い学ぶ。

【感 想】報告者：八重瀬町社会福祉協議会 指定相談支援事業所 新垣 安大

今回、定例会に参加した動機として、以前に別のコーチングの研修会に参加したことがあり、学び直しの意味も込めて参加させて頂きました。

沖縄県出身で宮古島にルーツを持つという豊田 麻琴さんより講話があり、前半では、相手に物事を伝える際のテクニックや、質問方法についてといった内容でした。

「相手に何かを伝える時には、五感を盛り込んだ伝え方だと、相手にイメージがしやすく、『見える化』することが有効である。」という部分がとても印象的でした。相手に映像や匂い、感触などの五感を活用してもらおうような伝え方が有効なのだと知りました。

後半では、「一人一人の個性を認め、相手の持つ能力や可能性を信じる人間観に基づいて相手の自発的な行動を促し、更には相手の成長と自己実現を支援する。」といった概要や理念、他の手法との違いや使い分け(ファシリテーション、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント)やチャンキング(捉え方の範囲を変える)といった新しい言葉や手法について学ばせて頂きました。

職場だけでなく、家庭においても活用できるというコーチング。周りの人の力を引き出したり、自分自身がコーチングされ力を引き出してもらったり・・・。まずは何気ない日常生活の中から活用してみたいな、と感じました。

# 2013年3月定例会報告

日 時：平成 26 年 3 月 22 日(土) 14 時～16 時

場 所：リワーク・ステーションB o w L

テーマ：『**B o w Lの取り組み ～うつ病に優しい沖縄県を目指して～**』

講 師：荷川取佳樹氏(リワーク・ステーションB O W L代表取締役CEO)

【概 要】復職支援、うつ病特化型リワーク、BOWLの紹介

【感 想】報告者：宮里病院 知念 佑

病院勤めの私が、「うつ病・就労」をイメージすると、まず①治療の為の通院があって治療が続く場合には支援(公費負担制度)があり、次に②地域で生活をおくる(続ける)為の支援(収入源や必要なサービス)があって、①治療と②生活の両面を確保したうえで、それから③就労支援～という順序のイメージが少なからずある。しかも、年金や生活保護といった収入源をベースに障がい者雇用での「本人のやりがい」や小遣い程度になればそれでいい...収入よりも無理なく継続させること。というのが就労支援と思っている。今回の定例会では、私のイメージが全く別物になった。BOWLが支援する研修生(利用者)は、教員や銀行員といった高学歴な方、そして経済的にはそれほど厳しくない環境で生活している。障がい者雇用よりも一般雇用、「うつ病」をオープンにして再就職を望んでいる人もいる。BOWLは治療機関ではなく、同じ悩みを持った仲間が集まる場所で、それぞれが目的意識を持って就職に励んでいる。支援方法が病院にいる私とは全く違ったものと感じた。そうすると興味が湧き、(年齢別それぞれの「うつの特徴」や、「新型うつ」の話も質疑である)荷川取氏の講演に夢中になり、あっという間の時間であった。

～会員の皆様へ 会費納入のお願い～

☆ 会費口座引き落としの手続きはお済みでしょうか？まだの方はお早めに手続きをお願いします。

**★お便り大募集！！★**

会員の皆さまからの情報・報告・投稿・作品(詩やエッセイなど何でも!)をお待ちしています。  
また、当協会へのご意見・ご要望などお寄せ下さい。送り先はPSW協会メールへお願いします。